Vol.126

院長　関の

# Face to Face

2018年12月1日発行

中国最古の薬物書に、神農という神様が身近な草木の薬効を確かめるために自らの身体を使い、何度も毒に当たっては薬草の力でよみがえったとされたことをもとに書かれた「神農本草経」という書物があります。ここには古代中国に伝わる薬物の知識が収録されており、365種の薬が上薬・中薬・下薬の三種に分けられています。上薬は生命を養う薬

# 常用は恐い！痛み止めの副作用

で無毒、中薬は病を防ぎ体力を補うが使い方次第で毒にもなる。下薬は毒性が強いため対処療法として使い、長期の使用は慎むべきもの。という定義があります。日本でもこれと多少似た考え方の分類が平成二一年にでき、当時の下薬に分類されると思われる痛み止めが処方箋なしで買えるようになりました。例えば身近なものが非ステロイド性消炎鎮痛剤の「ロキソニン」です。これは長期間使用したり、頻繁に使用すると多くの副作用が生じる薬で、代表的な副作用としては、胃や腸の粘膜を痛め、血流が悪くなり、腎臓の機能を低下させます。脳卒中や心筋梗塞、心不全などの病気が悪化することも報告されています。本当に辛いときは助かる痛み止めですが、あくまでも急場のしのぎと考え、痛みを起こした根本的な原因を探してそこを治す養生をし、体質を変えていくことが大切だと思います。

◇

関　修一（せきしゅういち）
健育会　東銀座整骨院・整体院・
鍼灸院　院長
代替医療の総合治療院としての確立を目指す。タイトルのFace to Faceは「患者さん自身と向き合って患者さんの症状と闘う」ことを願ってつけた

※毎月一日の発行です